

生活支援体制整備事業の理念・概念図(豊島区地域包括ケアシステムの実現)

～高齢者が主役となって、つながり、支え合い、幸せに住み慣れた地域で暮らせるまち としま～

豊島区がめざす地域包括ケアシステムの姿

- 住み慣れた地域で生活を続けていくために、健康づくりや生きがいづくり、介護予防などの活動へ積極的に参画する高齢者を支援するとともに、高齢者が活躍する場を増やすことで支え合いの輪を広げます
- 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)が核となり、地域との連携により高齢者をサポートしていくことで、安全・安心な暮らしと、可能な限り自宅での生活を支える包括的な支援を続けます
- 高齢者が孤立することなく、地域の子育て世帯や若者たちとつながりをもって生活できる住環境を整え、高齢者の心身の状況に応じた多様な住まい方を支援します
- 地域において多様な担い手によるサービスや介護保険などの公的なサービスを適切に組み合わせ、高齢者の心身を支えるサービスの充実と質の高いサービスの提供を進めます

介護予防・フレイル対策

生活支援体制整備事業

認知症対策事業

医療と介護連携推進事業

生活支援体制整備の理念

◎高齢者が住み慣れた地域で生活し続けていくために互いに助け合う地域づくりを進めるとともに、高齢者が自らの人生の主役として活躍できる環境をつくり、発信・提供していきます。

8期の目指すべき姿

- いつまでも自分らしい暮らしを継続し誰もがより長く元気に活躍できる 仕組みを構築します。
- 調理、買い物、掃除などの在宅生活における個別支援を行っていくことはもちろんボランティア、NPO、民間事業者等の多様な主体による生活支援・介護予防サービス提供する環境を整備します。同時に生きがいや介護予防につながるような生活支援の担い手としての高齢者の社会参加・社会的な役割を持つことができる地域づくりを推進します。

理念を実現するための目指すべき姿

<お互い様・おせっかいで支え合う地域づくり>

～あるべき姿～

地域資源が豊富なまち、どんな高齢者も取り逃さない

- 地域づくり、地域で支える仕組み
- 生活支援・介護予防についての高齢者以外の地域の理解
- 1人暮らし高齢者を支える仕組み
- 住んでいる人だけでなく、働いている人、学んでいる人、外国人の人、みんなで支える

【具体的な支援】

～地域づくりの推進～

- ・介護予防は地域で取り組むという意識
- ・見守り訪問・声掛け
- ・孤立しない、させない
- ・多様なプログラムづくり
- ・困っている人、困りそうな人を見つけた人が迷わずどこかへ繋げる環境
- ・多世代交流季節行事
- ・支援者間の顔が見えるつながり
- ・ツールを作る人、支える人
- ・地域ごとの特性を活かす

～通いの場・交流の場の把握・創出～

- ・交流の場(例:地域のサロン、サークル)
- ・近所づきあいを含めた顔の見える関係
- ・困った時に相談できる場所が誰にでもある
- ・相談できる場が近所にあること(通いの場、人)
- ・介護予防の通いの場
- ・誰もがそれぞれ地域で楽しめる場がある
- ・ちょっと立ち寄って休めるような場所
- ・趣味を生かしたサークル活動の創出
- ・地域性の把握(坂等)

～生活支援の推進～

- ・施設の送迎車に移動の支援をしてほしい
- ・銭湯に行く支援
- ・お風呂、通院等の同行
- ・ゴミ出し支援
- ・高齢者の足、移動手段
- ・買い物支援、様々な生活の困りごと支援
- ・食に関することの支援→日々の食事、栄養管理
- ・健康管理の支援
- ・住まいの支援、転居、一人暮らし
- ・大人食堂

<高齢者の活躍できる場の創出>

～あるべき姿～

高齢者のやりがい、役割の創出

- 担い手の発見・育成、組織、自分の能力を發揮したお手伝いの創出
- 高齢者の主体的活動を支援
- 自分が誰かの役に立てるといこと

【具体的な支援】

～役割創出の現状把握～

- ・元気高齢者の把握・活躍できる場の把握→活躍の場(サポーター、援助スタッフ)
- ・高齢者各自のこれまでの特技を活かした活動

～支える側の支援～

- ・お隣りさんとのコミュニケーションづくり(町会等)
- ・地域の商店街、企業との連携
- ・町会等の取組
- ・サポートしてくれる人がいるということ
- ・他人を受け入れるという雰囲気を地域の各団体が持つ(豊島区がそのような街と区民が思う)
- ・ストレスのない活動(継続性のある)

～高齢者の意識づくり～

- ・高齢者の意識改革(既存のサービスからの脱却)
- ・ボランティア的な活動が何かの役に立っていると感ぜられる仕組みづくり
- ・サービス(活動)は介護保険だけではないということ
- ・ボランティアを活用する意識づくり

<必要な情報を自ら選択できる環境づくり>

～あるべき姿～

情報のアクセスのしやすさ

- 地域資源の見える化、地域資源情報の蓄積(Ayamuの推進)
- 高齢者へのICT環境の推進
～LINEなど繋がりがしやすい環境づくり～
- 高齢者が受け取りやすい情報発信・情報伝達

【具体的な支援】

～ICTを活用できる環境づくり～

- ・高齢者でもインターネットが使える、スマホが使える
- ・リモートによる見守り支援

～受け取りやすい情報の伝達～

- ・ICTの活用が不得意な高齢者でも情報の受けとれる多様な媒体での情報発信
- ・口伝や回覧など従来の情報伝達の継続

～介護予防・生活支援情報の集約～

- ・サービスをまとめて管理＝DBの提供体制の確立
- ・地域のどのような通いの場があるか分かりやすい環境
- ・ここに聞けば情報が集まっているところ
- ・手伝いたい人が手伝えるための情報コーナー
- ・手軽な運動をさせるツール、散歩マップ、体操のDVD
- ・地域の関わりたいと思った時に気軽に地域のことを知れる、参加できる場が浸透している